

高 校 Ⅲ 年

2025

Syllabus

職員室用

高田高等学校

学科名			普通科												
教科	科目	標準単位数	I類進学						II類						
			I	II 文	II 理	III 文1	III 文2	III 理	I 進学	I 特別選抜	II 文・特文	II 理・特理	III 文	III 特文	III 理・特理
国語	現代の国語	2	2						2	2					
	言語文化	2	2						2	2					
	論理国語	4		2	2	2	2	2			2	2	2	2	2
	文学国語	4		2		2	2								
	国語表現	4													
	古典探究	4		3	3	2	2	2			3	3	3	3	3
	表現基礎(学)	2~3				2	2					3 ^B			
地理歴史	文学基礎(学)	1									1		1	1	
	地理総合	2		2	2						2	2			
	地理探究	3													3
	歴史総合	2	2						2	2					
	日本史探究	3	3	3	5	5	5	5			3	3	4	4	4
公民	世界史探究	3	3	3	5	5	5	5			3	3	4	4	4
	公共	2	2					2			2	2			
	倫理	2													
数学	政治・経済	2				2		2					3	3	
	数学Ⅰ	3	3							3	3				
	数学Ⅱ	4	1	4	4	3			4 ^T	1	1	3	3	3 ^A	3
	数学Ⅲ	3				3			4 ^S			1			4
	数学A	2	2							3	3				
	数学B	2			2	3			1 ^T			2	2	2 ^A	2
理科	数学C	2			1				1 ^T 2 ^S			1	1	1 ^A	1
	数学基礎演習(学)	2											2	B	
	科学と人間生活	2					2								
	物理基礎	2	2							2	2				
	物理	4		3					4						4
	化学基礎	2		2	2	1		2	4			2	2	2 ^A	2
	化学	4			2				5				3		4
保健体育	生物基礎	2	2	1	3	1	2			2	2	1	4	1	1
	生物	4		3				4				4			4
	地学基礎	2													
	地学	4													
	体育	7~8	3	3	2	2	3	2	3	3	3	2	2	2	2
芸術	保健	2	1	1	1				1	1	1	1	1		
	音楽Ⅰ	2	2	1					2	2					
	音楽Ⅱ	2				2									
	音楽Ⅲ	2													
	美術Ⅰ	2	2	1					2	2					
	美術Ⅱ	2	2	2	1		2		2	2					
	美術Ⅲ	2					2		2	2					
	工芸Ⅰ	2													
	工芸Ⅱ	2													
	工芸Ⅲ	2													
	書道Ⅰ	2	2	1					2	2					
	書道Ⅱ	2				2									
	書道Ⅲ	2													
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3						3	4					
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	4						4	4	3 ^B		
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4	4					4	4	4	
	論理・表現Ⅰ	2	3						3	3					
	論理・表現Ⅱ	2		3	3						3	3			
	論理・表現Ⅲ	2			3	3	2						3	3	2
家庭	家庭基礎	2	2						2	2					
	家庭総合	4													
情報	情報Ⅰ	2				2	2	2					2	2	2
	情報Ⅱ	2													
理数	理数探究基礎	1													
	理数探究	2~5													
宗教	一般仏教(学)	2~3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	宗乗・余乗(学)	(5)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)
総合的な探究の時間 (実施時間数)			3~6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
科目的単位数の計			34	33	33	33	33	33	35	36	35	35	35	35	35
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計			35	34	34	34	34	34	36	37	36	36	36	36	36

S6単位選択

A8単位選択

T6単位選択

B8単位選択

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	論理国語	単位数	2 単位	履修学年	III年Ⅰ類
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。 ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使うことができる。</p>						
使用教材	<p>【教科書】論理国語（数研出版）</p> <p>【副教材】現代文単語 改訂版（いいづな書店）・常用漢字ダブルクリア（尚文出版） グランステップ現代文 2.5（尚文出版） 他</p>						
学期	学習内容	学习のねらい					
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「『いき』の美学」 ・「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 ・「メディアのテロル」 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例をもとに筆者の意図を捉える。 ・多様な論点を結びつける。 ・社会的背景への理解を深め、筆者の指摘以外に現代社会を作り上げたものを考える。 					
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「『である』ことと『する』こと ・「意志と選択」 ・「環境と心の問題」 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構造を理解し、論点・要旨を把握する。 ・筆者の主張を整理し、それに対する自分自身の意見や社会との関わり方について考える。 ・「文化」や「国家」といった社会の枠組みについて理解を深める。 ・身近な例と関連づけ、哲学的思想に親しむ。 					
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「無常ということ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文体で述べられる文章から、論点と主張を押さえる。 ・伝統的文章の時代と現代とで、似通った価値観があることに気づく。 					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜演習を取り入れ、入試に対応した力を養う。 ・語彙や漢字の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・小論文・志望理由書など、書くを中心とした活動を取り入れる。 ・自主学習に問題集を取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	論理国語	単位数	2 単位	履修学年	III年 II類進学
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようとする。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。 ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使うことができる。</p>						
使用教材	<p>【教科書】論理国語（数研出版）</p> <p>【副教材】現代文単語 改訂版（いいづな書店）・常用漢字ダブルクリア（尚文出版） グランステップ現代文 2.5（尚文出版） 他</p>						
学期	学習内容	学習のねらい					
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「『いき』の美学」 ・「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 ・「メディアのテロル」 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例をもとに筆者の意図を捉える。 ・多様な論点を結びつける。 ・社会的背景への理解を深め、筆者の指摘以外に現代社会を作り上げたものを考える。 					
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「『である』ことと『する』こと ・「意志と選択」 ・「環境と心の問題」 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構造を理解し、論点・要旨を把握する。 ・筆者の主張を整理し、それに対する自分自身の意見や社会との関わり方について考える。 ・「文化」や「国家」といった社会の枠組みについて理解を深める。 ・身近な例と関連づけ、哲学的思想に親しむ。 					
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「無常ということ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文体で述べられる文章から、論点と主張を押さえる。 ・伝統的文章の時代と現代とで、似通った価値観があることに気づく。 					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜演習を取り入れ、入試に対応した力を養う。 ・語彙や漢字の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・小論文・志望理由書など、書くを中心とした活動を取り入れる。 ・自主学習に問題集を取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	文学国語	単位数	2 単位	履修学年	III年 I 類文 2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようとする。 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」「読むこと」の各領域で深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>						
使用教材	<p>【教科書】文学国語（数研出版）</p> <p>【副教材】WIN STEP国語2 Core 文学的文章編（株式会社ラーンズ）</p>						
学期	学習内容	学習のねらい					
1	<ul style="list-style-type: none"> 「檸檬」 「クリーム」 	<ul style="list-style-type: none"> 心象風景を描いた小説を共感的に読み取り、わずかな工夫によって、世界の捉え方が変わることに気付く。 物語の展開と出来事を整理し、登場人物の心理を表現に即して読み解く。 					
2	<ul style="list-style-type: none"> 「野火」 「件」 	<ul style="list-style-type: none"> 内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特徴などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品の解釈を踏まえてそれらを深める。 					
3	<ul style="list-style-type: none"> 「藤野先生」 	<ul style="list-style-type: none"> 時代背景をふまえて小説を読み、人種や国籍を超えた、他者とのきずなを読み取り、考えを深める。 					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 毎週語句の小テストを行い、語彙の定着を図る。 「読む・話す・書く」活動をバランス良く行い、面接やエントリーシートに寄与する力を養う。 進路実現のため、適宜問題演習を実施する。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようとする。 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の古典に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>						
使用教材	<p>【教科書】古典探究 古文編 漢文編（第一学習社）</p> <p>【副教材】学ぶぞ古文と漢文（尚文出版）・イラストとシーンでおぼえる Look@古文単語 337（京都書房）</p>						
学期	学習内容	学習のねらい					
1	<p>古文 『発心集』『宇治拾遺物語』『枕草子』</p> <p>漢文 『説苑』『新序』『列子』</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人物の論理と行動を読み解く。 説話や隨筆という文章特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 我が国の文化の特質について理解を深める。 逸話という文章の種類を踏まえて、構成や展開を的確に捉える。 訓読のきまりについて理解を深める。 語句の量を増やし、語句を豊かにする。 					
2	<p>古文 『源氏物語』『無名草子』『大鏡』</p> <p>漢文 『楚辞』『諸家の文章』『史記』</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長編物語としてのストーリーをたどりながら、話の展開の仕方や心理描写の巧みさを捉える。 女性作者二人を批評した文章を読んで、歴史の伝承の仕方の一端に触れる。 歴史に残された人々の姿に触れる。 主張する生き方の違いを把握する。 史伝という文章の種類を踏まえて、構成や展開を的確に捉える。 					
3	<p>古文 『玉勝間』『西鶴諸国はなし』</p> <p>漢文 『史記』</p>	<ul style="list-style-type: none"> 批判的な作者の論理を理解し、古文を評価する態度や手法について考えを深める。 近世に生まれた新たな文芸を読み、文章に表れた価値観を通じて考えを深める。 作者の考えや目的を捉えて内容を理解する。 					
学習上の留意	<ul style="list-style-type: none"> 適宜演習を取り入れ、入試に対応した力を養う。 古文単語の小テストを行い、語彙の定着を図る。 自主学習に問題集を取り入れる。 						

科目的年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	古典探究	単位数	3 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類進学
到達目標			<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようとする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
評価の観点・評価基準			<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の古典に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>				
使用教材			<p>【教科書】古典探究 古文編 漢文編（第一学習社）</p> <p>【副教材】学ぶぞ古文と漢文（尚文出版）・イラストとシーンでおぼえる Look@古文単語 3 3 7（京都書房）</p> <p>マドンナ古文常識（Gakken）・WINSTEP 古典 2（Benesse）他</p>				
学期			学習内容			学習のねらい	
1			<p>古文 『発心集』『宇治拾遺物語』『枕草子』</p> <p>漢文 『説苑』『新序』『列子』</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・人物の論理と行動を読み解く。 ・説話や隨筆という文章特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・我が国の文化の特質について理解を深める。 ・逸話という文章の種類を踏まえて、構成や展開を的確に捉える。 ・訓読のきまりについて理解を深める。 ・語句の量を増やし、語句を豊かにする。 	
2			<p>古文 『源氏物語』『無名草子』『大鏡』『風姿花伝』</p> <p>漢文 『楚辞』『諸家の文章』『史記』</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・長編物語としてのストーリーをたどりながら、話の展開の仕方や心理描写の巧みさを捉える。 ・女性作者二人を批評した文章を読んで、歴史の伝承の仕方の一端に触れる。 ・歴史に残された人々の姿に触れる。 ・日本最古の演劇論を読み内容を理解する。 ・主張する生き方の違いを把握する。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、構成や展開を的確に捉える。 	
3			<p>古文 『玉勝間』『西鶴諸国はなし』『雨月物語』</p> <p>漢文 『史記』</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・批判的な作者の論理を理解し、古文を評価する態度や手法について考えを深める。 ・近世に生まれた新たな文芸を読み、文章に表れた価値観を通じて考えを深める。 ・作者の考えや目的を捉えて内容を理解する。 	
学習上の留意			<ul style="list-style-type: none"> ・適宜演習を取り入れ、入試に対応した力を養う。 ・古文単語の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・問題集は自宅学習を主とするが、講義・演習形式をとることもある。 				

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	古典探究	単位数	3 単位	履修学年	III年 II類特選
到達目標			<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようとする。 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 				
評価の観点・評価基準			<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の古典に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>				
使用教材			<p>【教科書】古典探究 古文編 漢文編（第一学習社）</p> <p>【副教材】学ぶぞ古文と漢文（尚文出版）・イラストとシーンでおぼえる Look@古文単語 3 3 7（京都書房）</p> <p>マドンナ古文常識（Gakken）・WINSTEP 古典 2（Benesse）・すらすら読める速読古典（京都書房） 他</p>				
学期			学習内容			学習のねらい	
1			<p>古文 『発心集』『宇治拾遺物語』『枕草子』</p> <p>漢文 『説苑』『新序』『列子』</p>			<ul style="list-style-type: none"> 人物の論理と行動を読み解く。 説話や隨筆という文章特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 我が国の文化の特質について理解を深める。 逸話という文章の種類を踏まえて、構成や展開を的確に捉える。 訓読のきまりについて理解を深める。 語句の量を増やし、語句を豊かにする。 	
2			<p>古文 『源氏物語』『無名草子』『大鏡』『風姿花伝』</p> <p>漢文 『楚辞』『諸家の文章』『史記』</p>			<ul style="list-style-type: none"> 長編物語としてのストーリーをたどりながら、話の展開の仕方や心理描写の巧みさを捉える。 女性作者二人を批評した文章を読んで、歴史の伝承の仕方の一端に触れる。 歴史に残された人々の姿に触れる。 日本最古の演劇論を読み内容を理解する。 主張する生き方の違いを把握する。 史伝という文章の種類を踏まえて、構成や展開を的確に捉える。 	
3			<p>古文 『玉勝間』『西鶴諸国はなし』『雨月物語』</p> <p>漢文 『史記』</p>			<ul style="list-style-type: none"> 批判的な作者の論理を理解し、古文を評価する態度や手法について考えを深める。 近世に生まれた新たな文芸を読み、文章に表れた価値観を通じて考えを深める。 作者の考え方や目的を捉えて内容を理解する。 	
学習上の留意						<ul style="list-style-type: none"> 適宜演習を取り入れ、入試に対応した力を養う。 古文単語の小テストを行い、語彙の定着を図る。 問題集は自宅学習を主とするが、講義・演習形式をとることもある。 	

科目の年間授業計画(シラバス)

科目的年間授業計画(シラバス)

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	3 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類 進学・特選理系
到達目標			<p>① 地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。</p> <p>② ①をふまえ、選択した地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付ける。</p> <p>③ ①、②をふまえ、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を構想する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。</p>				
評価の観点・評価規準			<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。 地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題について理解することで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。 調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。 <p>【評価の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年4回実施の定期考査では、出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考力・判断力・表現力を評価する。 課題学習で提出されるレポートを評価のための資料とする。 日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とする。 評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行うものとする。 				
使用教材			帝国書院「詳説地理探究」 帝国書院「新詳高等地図」 副教材 帝国書院「詳説地理資料COMPLETE2025」				
学期		学習内容		学習のねらい			
1		第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 1節 地形 2節 気候 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題		地理総合で学んだ知識を基に、地球上の地形や気候、生態系にはどのような傾向や規則性があり、それらは地理的課題とどのように関わっているのかについて、場所や人間と自然の関わりなどに着目して考察する。			
		第2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業		地理総合で学んだ内容と自然環境分野で学んだ知識を基に、産業毎の立地や特徴について学びを深め、世界の地域、国々おいてどのような産業が盛んであり、どのような課題が生じているのかについて考察する。			

	<p>第3章 交通・通信と観光、貿易</p> <p>1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏</p> <p>第4章 人口、村落・都市</p> <p>1節 人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題</p>	<p>地理総合で学んだ内容や、産業分野で学んだ知識を基に人や物、情報がどのように行き来し、地域や国家がどのように結びついているかについて学ぶ。</p> <p>地理総合で学んだ内容を基に、国家・都市における人口構成の特徴や、問題点について学ぶ。また、村落や都市の形成に関して、発達の過程や構造に着目することで、それぞれがどのような機能を有しているかを理解し、課題の解決につなげる。</p>
2	<p>第5章 生活文化、民族・宗教</p> <p>1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題</p> <p>第2部 現代世界の地誌的考察</p> <p>第1章 現代世界の地域区分</p> <p>1節 地域区分</p> <p>第2章 現代世界の諸地域</p> <p>1節 中国 2節 韓国 3節 東南アジア 4節 インド 5節 西アジアと中央アジア 6節 アフリカ 7節 ヨーロッパ 8節 ロシア 9節 アメリカ合衆国 10節 ラテンアメリカ 11節 オセアニア</p>	<p>地理総合で学んだ内容や自然地理分野で学んだ内容を基に、人類の多様性について考察し、それぞれの民族によって育まれてきた文化についての知識を深める。また、相互理解の不足や歴史的な経緯によって現代においても各地で民族問題や紛争が生じていることを認識する。</p> <p>第2部では、これまで学んできた系統地理的知識を、地域毎に確認することで、それぞれの地域における自然地理と人文地理を関連付けて理解する。また、我々の生活や日本との関連性についても考察することで、世界で起きている様々な事象が自分自身と繋がっており、人類共通の課題であることを理解する。</p>
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・地理総合で取り扱った内容は復習にとどめる。 ・基礎的知識の徹底をはかる。 ・各地域世界の特徴を知るとともに、世界における日本の位置を把握させる。 ・講義式の学習形態だけでなく、発表やテーマに沿った学習などを積極的に活用し、生徒自身の授業への積極的参加を求めていく。 	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	5 単位	履修学年	Ⅲ年 I 類 進学文系
到達目標	・日本史の流れを理解し、歴史的考察力を身に付ける。 ・個々の歴史的事象を、因果関係の中で理解する態度を身に付ける。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、それらを適切に表現する力を養う。 ・歴史の変化に関わる諸事象について、その課題を主体的に追究、解決する態度を養う。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 ・歴史の変化について、広く相互的な視野から捉え、理解できているか。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができているか。 【思考・判断・表現】 ・歴史の変化に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察できているか。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、またそれらを適切に表現できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・時代の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。						
使用教材	・教科書『詳説日本史』（山川出版社） ・副教材『新詳日本史（付 史料の基礎210選）』（浜島書店）						
学期	学習内容	学習のねらい					
1	第9章 近世の幕開け 3. 幕政の安定　　4. 経済の発展 第10章 幕藩体制の動搖 1. 幕政の改革　　2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道　4. 化政文化 第11章 近世から近代へ 1. 開国と幕末の動乱 2. 幕府の滅亡と新政府の発足 第12章 近代国家の成立 1. 明治維新と富国強兵　2. 立憲国家の成立	・貨幣経済の発展を基礎に、領国一円支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 ・江戸時代の長期安定のなかにおいても、社会的矛盾が深化してゆく姿をみる。 ・幕政藩政改革と比べながら国家的規模の変革の過程と限界を考えさせる。 ・近代化の過程を学び、後進的に資本主義化した日本がかかえる問題を考えさせる。					
2	第13章 近代国家の展開 1. 日清・日露戦争と国際関係 2. 第一次世界大戦と日本 3. ワシントン体制 第14章 近代の産業と生活 1. 近代産業の発展　2. 近代文化の発達 3. 市民生活の変容と大衆文化 第15章 恐慌と第二次世界大戦 1. 恐慌の時代　　2. 軍部の台頭 3. 第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 1. 占領と改革　　2. 冷戦の開始と講話	・成立後の日本資本主義の課題に取り組む大正デモクラシーの姿を見て、その限界を考える。 ・資本主義の転換点である世界恐慌に、プロック経済圏の拡大で臨む経過と結果をみる。 ・国際社会の中における日本の立場に着目し、大正～終戦までの対外政策の推移や、二つの大戦の影響について考察させる。 ・戦後の民主化について、日本を国際社会の中に位置づけて理解させる。冷戦による占領政策の転換、保守政治の安定までの過程をみる。					
3	第17章 高度成長の時代 1. 55年体制 2. 経済復興から高度経済成長へ 第18章 激動する世界と日本 1. 経済大国への道 2. 冷戦の終結と日本社会の変容	・高度成長とその限界を経て、グローバルな市場をめぐる競争時代になる一方で、環境・平和のための共存が模索されるべき時代である事を理解させる。 ・日本が国際社会の中で果たす役割を考察させ、平和や環境をめぐり世界との協調が不可欠である現状を把握させる。					
学習上の留意点	・各事象の因果関係や、後世への影響について、常に留意しつつ、理解を深めさせる。 ・図説、史料などの補助資料を活用し、史資料読解に積極的に取り組む。 ・生徒自身が学習内容について主体的に考え、更にそれを表現する機会を多く設ける。 ・発問や小テストなどを通じて知識の定着を図る。						

科目の年間授業計画（シラバス）

科目的年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	5 単位	履修学年	III年 I類進学文系
到達目標	・世界の各地で生まれた文明の特色を、地理的条件をふまえた上で理解する。 ・世界史の学習を通じ、世界との関わりから日本の歴史を捉えていくこうとする視点を養う。 ・2年次に3単位、3年次に5単位で教科書の内容を学習する。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 ・授業で扱っている範囲・テーマに対して関心を持ち、意欲的態度で授業に臨んでいるか。 ・各範囲の学習内容を全体的・構造的視野から理解し、基本的知識を身につけているか。 【思考・判断・表現】 ・歴史的事象について考察し、判断しているか。 ・図表や教科書等の諸資料を活用し、考察した過程や結果を適切に表現できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・時代や地域の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 ・授業・課題提出・定期考査などを通して、以上の観点から評価する。						
使用教材	教科書：『新詳世界史探究』（帝国書院） 副教材：『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社）、『新世界史要点ノート標準編』（啓隆社）						
学期	学習内容		学習のねらい				
1	3部 諸地域の交流・再編 2章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出 3章 主権国家体制の成立と交易の拡大 4部 諸地域の結合・変容 1章 環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生 2章 イギリスの霸権と欧米の国民国家建設 3章 世界の一体化の進展とアジアの変容		・明清帝国を中心とするアジア諸国と世界各地の結び付きの特徴を理解する。 ・スペインとポルトガルの海外進出がヨーロッパや南北アメリカ大陸にもたらした変化を理解する。 ・モンゴル帝国後の西アジアや南アジアの諸帝国の統治政策を理解する。 ・周辺世界や諸民族、諸宗教との関連を視野に入れてオスマン帝国、ムガル帝国を理解する。				

		<ul style="list-style-type: none"> ・大航海時代によって成立した近代世界史システムを理解するとともに、宗教改革と対抗宗教改革、オランダの霸権と英仏の台頭など17世紀ヨーロッパと、ロシア台頭など国際社会の推移を理解する。 ・アメリカ独立やフランス革命の世界史的意義を理解する。
2	4章 世界の一体化の完成とその影響 5章 世界大戦の時代 6章 戦後の国際秩序と冷戦 5部 地球世界の課題 1章 冷戦の展開と平和の模索 2章 グローバル化する国際経済とその課題 3章 情報と科学技術によって結びつく世界 4章 地球世界の課題の探究	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義時代の特質を、様々な側面から把握する。 ・欧米列強による世界秩序形成、植民地化の拡大などを理解する。 ・アヘン戦争から辛亥革命の経緯について、整理して把握する。 ・総力戦としての大戦的な性格、大戦終結に至る経緯を把握する。 ・ロシア革命の意義や、国際協調の成果と限界について考察する。 ・第二次世界大戦に至る対立状況を認識する。 ・連合国軍の反撃と終戦にいたる経緯について理解する。 ・東西冷戦体制の成立とその世界化の諸状況について理解し、核の脅威と平和の意義について考察する。 ・冷戦後の世界経済のグローバル化と、発生した諸問題、地域経済圏形成の動きなどについて理解する。
3	演習	
学習上の留意点	<p>・3年次では2年次の続きを学習するため、前年に引き続き地理的要因、思想にも留意しながら世界史の基本的な知識を身につけていく。</p> <p>・語句の暗記に終始しないよう、興味・関心を喚起する授業を展開する。</p> <p>・小テストを適宜実施し、学習内容の理解徹底に努める。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類進学
到達目標	政治経済に関する基礎的事項の知識の習得を行う。その上で、憲法や人権意識の発展をとらえ、今日の日本や国際社会における問題点を考察し、自分なりの意見を持てるに同時に異なる意見を理解し、考える力を身につける。経済面では、様々な課題を通じて、国家がどこまで経済に関与すべきか、また国際経済のグローバル化に國家はどのように関わるのかなどの問題を考察させる。						
評価の観点・評価基準	「知識・技能」…単なる語句の理解にとどまらず、実生活に必要な知識として定着しているか。 「思考・判断・表現」…政治経済の諸問題に対し、多角的な視点で解決策や対策を思考できているか。かつ、学んだ知識を活用しているか。 「主体的に取り組む態度」…授業態度の評価だけにとどまらず、グループワークなどを通じて、積極的に交流し、他者の意見を尊重できているか。課題やレポート提出などに取り組んで、さらなる発展学習につながっているか。						
使用教材	教科書：政治・経済（第一学習社） 副教材：最新 政治・経済資料集 2025（第一学習社）						
学期	学習内容	学習のねらい					
1	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治・経済 第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方 第3節 市場経済の機能と限界 第4節 持続可能な財政および租税のあり方 第5節 金融を通した経済活動の活発化 第6節 経済活動と福祉の向上	・現代の政治、経済の仕組みを学び、経済分野の基盤となる知識や思考力を養う。 ・日本経済の歩みなどを理解し、現在の日本経済の課題について学習する。 ・市場経済におけるさまざまな状況を学習する。 ・金融の仕組みを学び、財政の知識を深める。					
2	第2章 現代日本の諸課題の探求 第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第1節 國際法の果たす役割 第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質 第4節 国際経済において求められる日本の役割 第2章 国際社会の諸課題の探求	・日本経済の抱える課題を、日本の現状から捉え、その解決方法を考察する力を養う。 ・グローバル化の進展に伴い、地域主義の動きが活発化していることを学習し、課題点について考察する。 ・国際政治、国際経済を学び、国際的つながりから国際社会のあり方を考察する。 ・世界における日本の役割を考察し、国際平和などへの貢献を学ぶ。国際社会の諸課題をこれまでの学習を基礎に考察する。					
3	振り返り学習 演習						
学習上の留意点	・政治経済分野を考察するために常に国内外の事柄に関心を持ち、多角的な意見を持つことを心がける。 ・生徒が主体的に考えることのできるテーマや資料を活用し、生徒との対話を意識する授業を心がける。 ・多くの多角的な意見を教師側が提示し、その意見を取捨選択し、自らの意見を構築できる人材育成を心がける。						

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅰ類進学理系
到達目標	関数の極限、微分法及び積分法について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切にし、「応用力」を身につける。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p> <p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え方を論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p> <p>【基準】 「定期考查、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
	教科書	啓林館「深進数学Ⅲ」(数Ⅲ 707)					
	傍用問題集	啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅲ」					
	参考書	啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ+複素数平面・式と曲線 (数学C)」					
使用教材	補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第2章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数 第2節 関数の極限と連続性 第3章 微分法 第1節 微分と導関数			分数・無理関数のグラフを描き、それを利用して分数・無理方程式、分数・無理不等式を解く。関数と逆関数の関係を理解し、合成関数についても考察する。 片側からの極限など、より詳しく極限を調べて、関数の極限値の性質についてまとめる。 $\sin \theta / \theta$ の極限を学習し、絶対値を使った三角関数の評価も学習し、いろいろな三角関数の極限が求められるようになる。また、ガウス記号で表される関数から、関数が連続であることの意味を理解し、それと関連して、中間値の定理などの重要な連続関数の性質を認識し、方程式の実数解の存在する区間を調べる場合などに活用できるようになる。 微分可能かどうかを詳しく見る。連続と微分可能の関係を学習する。導関数の定義を学習し、陰関数など種々の関数についても微分できるようになる。			

	<p>第2節 いろいろな関数の導関数</p> <p>第3節 導関数の応用</p> <p>第4節 いろいろな応用</p>	<p>三角関数の微分、対数関数の微分とそれに関する自然対数の底 e の導入と指数関数の微分を学習する。</p> <p>簡単な関数の第2次導関数、第3次導関数が求められるようになる。</p> <p>直線の方程式 $y - y_1 = m(x - x_1)$ を使って接線の方程式を求める。また、垂直条件を使って法線の方程式を求める。平均値の定理を導入し、実際に不等式の証明などに使って実用化する。数学IIで扱った増減表に慣れると共に問題が解けるようになる。第2次導関数とグラフの関係を見つけて、実際にグラフをかくときの手段の一つとして使えるようになる。</p> <p>増減表、グラフに注意をしながら、最大・最小の問題、文章問題に挑戦する。グラフをかいて、方程式・不等式を証明する。媒介変数を使った関数についてのグラフについて学習する。関数を使って、多項式で近似する。</p>
2	<p>第4章 積分法</p> <p>第1節 不定積分</p> <p>第2節 定積分</p> <p>第3節 積分法の応用</p> <p>大学入試に向けた総合演習</p>	<p>不定積分といろいろな積分をすることにより、扱える関数をより詳しく見る準備をする。置換積分と部分積分を学習し、積分できる関数の幅を増やす。</p> <p>定積分を定義し、初等関数を実際に定積分する。公式を導き出し、日常において使えるように練習する。</p> <p>区分求積法の考え方により、定積分と面積の関係について理解する。</p> <p>曲線と直線などで囲まれた部分の面積、媒介変数表示を用いて表される曲線で囲まれた部分の面積など、様々な関数を使って定義された図形の面積の求め方を学習する。体積が積分によって求められることを理解し、一般の立体図形の体積や、平面上の曲線で囲まれた図形を x 軸または y 軸のまわりに1回転してできる回転体の体積の求め方を学習する。簡単な曲線について、曲線の長さの求め方を学習する。</p> <p>発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。</p>

3	大学入試に向けた総合演習	大学入試に対応できる実力養成
学 習 上 の 留 意 点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、Grasp の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類進学理系	
到達目標	微分法及び積分法について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切にし、「応用力」を身につける。							
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p> <p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え方論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p> <p>【基準】 「定期考查、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>							
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学Ⅲ」(数Ⅲ 707)</p> <p>傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅲ」</p> <p>参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ+C (複素数平面・式と曲線)」</p> <p>補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>							
学期	学習内容				学習のねらい			
1	<p>第3章 微分法</p> <p>第1節 微分と導関数</p> <p>第2節 いろいろな関数の導関数</p> <p>第3節 導関数の応用</p>				<p>微分可能かどうかを詳しく見る。連続と微分可能の関係を学習する。導関数の定義を学習し、合成関数や逆関数、陰関数など種々の関数についても微分できるようにする。</p> <p>三角関数の微分、対数関数の微分とそれに関する自然対数の底 e の導入と指数関数の微分を学習する。</p> <p>簡単な関数の第2次導関数、第3次導関数が求められるようにする。</p> <p>直線の方程式 $y - y_i = m(x - x_i)$ を使って接線の方程式を求める。また、垂直条件を使って法線の方程式を求める。平均値の定理を導入し、実際に不等式の証明などに使って実用化する。数学Ⅱで扱った増減表に慣れると共に問題が解けるようになる。第2次導関数とグラフの関係を見つけて、実際にグラフをかくときの手段の一つとして使えるようにする。</p>			

	<p>第4節 いろいろな応用</p> <p>第4章 積分法</p> <p>第1節 不定積分</p> <p>第2節 定積分</p> <p>第3節 積分法の応用</p>	<p>増減表、グラフに注意をしながら、最大・最小の問題、文章問題に挑戦する。グラフをかけて、方程式・不等式を証明する。媒介変数を使った関数についてのグラフについて学習する。関数を使って、多項式で近似する。</p> <p>不定積分といろいろな積分をすることにより、扱える関数をより詳しく見る準備をする。置換積分と部分積分を学習し、積分できる関数の幅を増やす。</p> <p>定積分を定義し、初等関数を実際に定積分する。公式を導き出し、日常において使えるように練習する。 区分求積法の考え方により、定積分と面積の関係について理解する</p> <p>曲線と直線などで囲まれた部分の面積、媒介変数表示を用いて表される曲線で囲まれた部分の面積など、様々な関数を使って定義された图形の面積の求め方を学習する。体積が積分によって求められることを理解し、一般的の立体图形の体積や、平面上の曲線で囲まれた图形を x 軸または y 軸のまわりに 1 回転してできる回転体の体積の求め方を学習する。簡単な曲線について、曲線の長さの求め方を学習する</p>
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	大学入試の個別試験および 大学入学共通テスト対策総合演習	大学入試の個別試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集Graspを使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え 1 日 3 題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、Grasp の B 問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A 問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学III	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類特選理系
到達目標	微分法及び積分法について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようになると目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切にし、「応用力」を身につける。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p> <p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p> <p>【基準】 「定期考查、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学III」(数III 707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学III」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学III+C (複素数平面・式と曲線)」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容				学習のねらい		
1	<p>第3章 微分法 第1節 微分と導関数</p> <p>第2節 いろいろな関数の導関数</p> <p>第3節 導関数の応用</p>				<p>微分可能かどうかを詳しく見る。連続と微分可能の関係を学習する。導関数の定義を学習し、合成関数や逆関数、陰関数など種々の関数についても微分できるようにする。</p> <p>三角関数の微分、対数関数の微分とそれに関する自然対数の底 e の導入と指数関数の微分を学習する。</p> <p>簡単な関数の第2次導関数、第3次導関数が求められるようにする。</p> <p>直線の方程式 $y - y_i = m(x - x_i)$ を使って接線の方程式を求める。また、垂直条件を使って法線の方程式を求める。平均値の定理を導入し、実際に不等式の証明などに使って実用化する。数学IIで扱った増減表に慣れると共に問題が解けるようになる。第2次導関数とグラフの関係を見つけて、実際にグラフをかくときの手段の一つとして使えるようにする。</p>		

	第4節 いろいろな応用	増減表、グラフに注意をしながら、最大・最小の問題、文章問題に挑戦する。グラフをかいだ、方程式・不等式を証明する。媒介変数を使った関数についてのグラフについて学習する。関数を使って、多項式で近似する。
	第4章 積分法 第1節 不定積分	不定積分といろいろな積分をすることにより、扱える関数をより詳しく見る準備をする。置換積分と部分積分を学習し、積分できる関数の幅を増やす。
	第2節 定積分	定積分を定義し、初等関数を実際に定積分する。公式を導き出し、日常において使えるように練習する。 区分求積法の考え方により、定積分と面積の関係について理解する
	第3節 積分法の応用	曲線と直線などで囲まれた部分の面積、媒介変数表示を用いて表される曲線で囲まれた部分の面積など、様々な関数を使って定義された图形の面積の求め方を学習する。体積が積分によって求められることを理解し、一般の立体图形の体積や、平面上の曲線で囲まれた图形を x 軸または y 軸のまわりに1回転してできる回転体の体積の求め方を学習する。簡単な曲線について、曲線の長さの求め方を学習する。
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	国公立大学2次試験および 大学入学共通テスト対策総合演習	国公立大学2次試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集Graspを使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、GraspのB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につくことができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学 C	単位数	2 単位	履修学年	III年 Ⅰ類進学理系
到達目標	複素数平面、2次曲線、媒介変数と極座標について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切にし、「応用力」を身につける。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p> <p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え方の論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p> <p>【基準】 「定期考查、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学 C」(数 C 707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学 B+C」 参考書 数研出版「Focus Gold 5th Edition 数学 III+複素数平面・式と曲線 (数学 C)」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。						
学期	学習内容				学習のねらい		
1	<p>第1章 複素数平面 第1節 複素数平面</p> <p>第2節 平面図形と複素数</p>				<p>数学 IIにおいて方程式の解として導入された複素数を、座標平面上の点に対応させることで平面上の点として表し、複素数の四則演算の図形的な意味を考える。ベクトルを利用して、複素数の和・差および実数倍を図示し、複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の図形的意味を示して、ド・モアブルの定理を導く。さらに、この定理を利用して二項方程式 $z^n = a = 0$ を解き、その解を図示することを通して、累乗根の図形的な意味や結果の美しさを通して、複素数平面の考え方の良さを理解する。</p> <p>平面図形を複素数の集合と見なして、複素数の平面図形の問題への応用を図る。2点間の距離と絶対値、内・外分点の複素数、点 z のまわりの回転移動、2直線のなす角の複素数による表現、3点の共線条件、2直線の垂直条件、複素数の等式が表す図形などについて学び、幾何学的な関係が、どのように複素数の代数的な演算と結びつくかを考察して複素数を総合的に理解する。</p>		

	<p>第2章 平面上の曲線</p> <p>第1節 2次曲線</p> <p>第2節 媒介変数と極座標</p>	<p>2次曲線の標準形を学習し、焦点・準線・グラフがかけるようにする。2次曲線を平行移動することで図形もかけるようにする。判別式を用いて、共有点の数を理解する。</p> <p>媒介変数表示は重要な箇所であるため、自由自在に計算ができ、活用できるようにする。</p> <p>極方程式・離心率についても学び、曲線の見聞を広める。</p>
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	大学入試の個別試験対策総合演習	大学入試の個別試験に向けた実力養成
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Grasp を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、Grasp の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。</p> <p>また、大学入学共通テスト対策演習と同時に、Focus Gold 5th Editionを家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

科目的年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	2 単位	履修学年	III年 II類進学理系
到達目標	複素数平面、2次曲線、媒介変数と極座標について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切にし、「応用力」を身につける。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p> <p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え方の論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p> <p>【基準】 「定期考查、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学C」(数C707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学II+B+ベクトル(数学C)」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第1章 複素数平面 第1節 複素数平面</p> <p>第2節 平面图形と複素数</p>			<p>数学IIにおいて方程式の解として導入された複素数を、座標平面上の点に対応させることで平面上の点として表し、複素数の四則演算の図形的な意味を考える。ベクトルを利用して、複素数の和・差および実数倍を図示し、複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の図形的意味を示して、ド・モアブルの定理を導く。さらに、この定理を利用して二項方程式$z^n-a=0$を解き、その解を図示することを通して、累乗根の図形的な意味や結果の美しさを通して、複素数平面の考え方の良さを理解する。</p> <p>平面图形を複素数の集合と見なして、複素数の平面图形の問題への応用を図る。2点間の距離と絶対値、内・外分点の複素数、点zのまわりの回転移動、2直線のなす角の複素数による表現、3点の共線条件、2直線の垂直条件、複素数の等式が表す图形などについて学び、幾何学的な関係が、どのように複素数の代数的な演算と結びつかを考察して複素数を総合的に理解する。</p>			

	<p>第2章 平面上の曲線</p> <p>第1節 2次曲線</p> <p>第2節 媒介変数と極座標</p>	<p>2次曲線の標準形を学習し、焦点・準線・グラフがかけるようにする。2次曲線を平行移動することで図形もかけるようにする。判別式を用いて、共有点の数を理解する。</p> <p>媒介変数表示は重要な箇所であるため、自由自在に計算ができ、活用できるようにする。</p> <p>極方程式・離心率についても学び、曲線の見聞を広める。</p>
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	大学入試の個別試験および 大学入学共通テスト対策総合演習	大学入試の個別試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	<p>授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き留め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、GraspのB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

科目的年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	2 単位	履修学年	III年 II類特選理系
到達目標	複素数平面、2次曲線、媒介変数と極座標について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切にし、「応用力」を身につける。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p> <p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え方の論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p> <p>【基準】 「定期考查、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学C」(数C707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学II+B+ベクトル(数学C)」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第1章 複素数平面 第1節 複素数平面</p> <p>第2節 平面图形と複素数</p>			<p>数学IIにおいて方程式の解として導入された複素数を、座標平面上の点に対応させることで平面上の点として表し、複素数の四則演算の图形的な意味を考える。ベクトルを利用して、複素数の和・差および実数倍を図示し、複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の图形的意味を示して、ド・モアブルの定理を導く。さらに、この定理を利用して二項方程式$z^n=a=0$を解き、その解を図示することを通して、累乗根の图形的な意味や結果の美しさを通して、複素数平面の考え方の良さを理解する。</p> <p>平面图形を複素数の集合と見なして、複素数の平面图形の問題への応用を図る。2点間の距離と絶対値、内・外分点の複素数、点zのまわりの回転移動、2直線のなす角の複素数による表現、3点の共線条件、2直線の垂直条件、複素数の等式が表す图形などについて学び、幾何学的な関係が、どのように複素数の代数的な演算と結びつかを考察して複素数を総合的に理解する。</p>			

	<p>第2章 平面上の曲線 第1節 2次曲線</p> <p>第2節 媒介変数と極座標</p>	<p>2次曲線の標準形を学習し、焦点・準線・グラフがかけるようにする。2次曲線を平行移動することで図形もかけるようにする。判別式を用いて、共有点の数を理解する。</p> <p>媒介変数表示は重要な箇所であるため、自由自在に計算ができ、活用できるようにする。 極方程式・離心率についても学び、曲線の見聞を広める。</p>
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	国公立 2 次試験および 大学入学共通テスト策総合演習	国公立 2 次試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	<p>授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え 1 日 3 題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、Grasp の B 問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A 問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理科	科目	物理	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年 類理系
到達目標			<ul style="list-style-type: none"> 各分野において、古典物理学の原理や法則について系統的に理解すること。 物質と原子の分野について、現代の物理学に触れ、有用性や科学に対する興味を持つこと。 物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度をもつこと。 				
評価の観点および基準			<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力を身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>				
使用教材			<p>教科書 物理（東京書籍）</p> <p>副教材 2024 セミナー物理基礎+物理（第一学習社），スタディノート物理（第一学習社）</p> <p>進研 WINSTEP 物理（ラーンズ）</p>				
学期			学習内容		学習のねらい		
1			3編 電気と磁気 1章 電場と電位 2章 電流 3章 電流と磁場 4章 電磁誘導と電磁波		<ul style="list-style-type: none"> 静電気、電場、電位、コンデンサーについて理解する。 電流現象、直流回路について理解する。 磁場に関して、磁気力に関するクーロンの法則と電流がつくる磁場の両面から、磁場についての法則を理解する。 ローレンツ力と磁場について理解する。 電磁誘導の法則について理解する。 交流回路を取り扱い、抵抗、コンデンサー、コイルの回路中での振る舞いを理解する。 電磁波についての基本的な特徴を理解する。 		
2			4編 原子 1章 電子と光 2章 原子と原子核		<ul style="list-style-type: none"> 電子について理解を深める。 光の粒子性を理解する。 光子や電子の粒子性と波動性を理解する。 古典論から量子論のはじまりへの流れを理解する。 量子論的なものの見方を知る。 素粒子の理論について歴史と現状を知る。 		
3			問題演習		<ul style="list-style-type: none"> 物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、入試へ向けての問題演習を行う。 		
学習上の留意点			問題演習		<ul style="list-style-type: none"> 物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、問題演習を通じて入試に対応できる能力を養う。 		
					<ul style="list-style-type: none"> 1、2年時に学習してきた内容や授業ごとに学習したことしっかりと復習し、新たに学習する事柄と結びつけて理解すること。 学習の定着をはかるために、問題集や配布プリント、定期試験や模試など、繰り返してしっかりと復習すること。 		

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理科	科目	物理	単位数	4 単位	履修学年	III年 II類理系
到達目標	・各分野において、古典物理学の原理や法則について系統的に理解すること。 ・物質と原子の分野について、現代の物理学に触れ、有用性や科学に対する興味を持つこと。 ・物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度をもつこと。						
評価の観点および基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考查の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。 【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考查の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書 物理（東京書籍） 副教材 2024 セミナー物理基礎+物理（第一学習社）、スタディノート物理（第一学習社） 進研 WINSTEP 物理（ランズ）						
学期	学習内容	学习のねらい					
1	3編 電気と磁気 2章 電流 3章 電流と磁場 4章 電磁誘導と電磁波	・電流と直流回路について理解する。 ・磁場について理解する。 ・ローレンツ力と磁場について理解する。 ・電磁誘導の法則について理解する。 ・交流回路を取り扱い、抵抗、コンデンサー、コイルの回路中での振る舞いを理解する。 ・電磁波についての基本的な特徴などを理解する。					
2	4編 原子 1章 電子と光 2章 原子と原子核 問題演習	・電子について理解を深める。 ・光の粒子性を理解する。 ・光子や電子の粒子性と波動性を理解する。 ・古典論から量子論のはじまりへの流れを理解する。 ・量子論的なものの見方を知る。 ・素粒子の理論について歴史と現状を知る。 ・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、大学入試に対応できる能力を養う。					
3	問題演習	・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、大学入試に対応できる能力を養う。					
学習上の留意点	・自然に関心をもち、科学的に探求しようとする態度を養う。 ・学習の定着をはかるために、問題集を家庭学習として利用し、配布プリントや定期試験や模試をしっかり復習する。また大学入試に十分適応できるよう入試問題を取り入れる。						

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	1 単位	履修学年	III 年 I 類文 1
到達目標	・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考える。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・大学入試に対応できる力を身につける。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考查の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。 【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けていますか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できていますか。定期考查の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「新編化学基礎」 副教材：未定（4月に選定後、購入予定）						
学期	学習内容	学習のねらい					
1	第1編 物質の構成と化学結合 [復習と演習] 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化 [復習と演習] 第1章 物質量と化学反応式	・混合物と純物質、物質とその成分、物質の三態と熱運動の理解 ・原子とその構造、イオン、元素の周期表の理解 ・イオン結合とイオンからなる物質、分子と共有結合、共有結合の結晶、金属結合と金属の理解 ・原子量・分子量・式量、物質量、溶液の濃度、化学反応式と物質量の理解					
2	第2章 酸と塩基の反応 第3章 酸化還元反応 化学基礎全範囲の演習	・酸・塩基、水の電離と水溶液の pH、中和反応と塩、中和滴定の理解 ・酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、酸化還元反応の利用の理解 ・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。					
3	化学基礎全範囲の演習	・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。					
学習上の留意点	・大学入試を意識しながら、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し活用できるようにする。						

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2 単位	履修学年	III年Ⅱ類特文
到達目標	・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・大学入試に対応できる力を身につける。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考查の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。 【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考查の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「化学基礎」 副教材：未定（4月に選定後、購入予定）						
学期	学習内容	学习のねらい					
1	第1編 物質の構成と化学結合 [復習と演習] 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合	・純物質と混合物、物質とその成分、物質の三態と熱運動の理解 ・原子とその構造、イオン、周期表の理解 ・イオン結合とイオン結晶、共有結合と分子、配位結合、分子間にはたらく力、高分子化合物、共有結合の結晶、金属結合と金属結晶の理解 ・原子量・分子量・式量、物質量、溶液の濃度、化学反応式と物質量の理解					
2	第2編 物質の変化 [復習と演習] 第1章 物質量と化学反応式 第2章 酸と塩基の反応 第3章 酸化還元反応 化学基礎全範囲の演習	・酸・塩基、水素イオン濃度とpH、中和反応と塩、中和滴定の理解 ・酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、酸化還元反応の利用の理解 ・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。					
3	化学基礎全範囲の演習	・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。					
学習上の留意点	・大学入試を意識しながら、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し活用できるようにする。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理科	科目	化学	単位数	5単位	履修学年	III年Ⅰ類理系
到達目標	・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するため必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数(語句・簡単な計算・問題集の類似問題)、実験レポート(方法・データ)等を基準として評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数(計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題)、レポート、実験レポート(考察)等を基準として評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート(振り返り)、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	教科書：新編 化学(数研出版) 副教材：2024 セミナー化学基礎+化学(第一学習社)、新インプレス化学ノート(浜島書店)						
1	<p>第2編 物質の変化 第4章 電解質水溶液の化学平衡</p> <p>第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素(Ⅰ)-典型元素- 第3章 金属元素(Ⅱ)-遷移元素-</p> <p>第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基、塩、緩衝液の電離平衡について理解する。 典型元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 遷移元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解する。 					
2	<p>第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物</p> <p>大学入試問題 演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高分子化合物について性質や反応、構造を理解するとともに、その有用性などを認識する。また高分子化合物と身の回りの物質や地球環境、産業とのかかわりについても考える。 問題の演習を通じて、化学の理解を深めるとともに大学入試共通テストおよび私立大学の入試に対する実力をつける。 					
3	大学入試問題 演習	<ul style="list-style-type: none"> 問題の演習を通じて、化学の理解を深めるとともに大学入試共通テストおよび私立大学の入試に対する実力をつける。 					
学習上の留意点	授業に集中し、積極的かつ能動的な学習態度で臨むこと。 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、活用できるようにすること。						

科目的年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学	単位数	4 単位	履修学年	III年 II類理系
到達目標			<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 				
評価の観点・評価基準			<p>【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するため必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数(語句・簡単な計算・問題集の類似問題)、実験レポート(方法・データ)等を基準として評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数(計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題)、レポート、実験レポート(考察)等を基準として評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート(振り返り)、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>				
使用教材			<p>教科書：化学(教研出版) 副教材：2024 セミナー化学基礎+化学(第一学習社)、新インプレス化学ノート(浜島書店)</p>				
1		<p>第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素(I)-典型元素- 第3章 金属元素(II)-遷移元素-</p> <p>第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・典型元素の单体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 ・遷移元素の单体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 ・脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 ・官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 ・芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解する。 				
2		<p>第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物</p> <p>大学入試問題 演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物について性質や反応、構造を理解するとともに、その有用性などを認識する。また高分子化合物と身の回りの物質や地球環境、産業とのかかわりについても考える。 ・問題の演習を通じて、化学の理解を深めるとともに大学入試共通テストおよび私立大学の入試に対する実力をつける。 				
3		大学入試問題 演習	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試の過去問題の演習を通じて、国公立大学の入試に対する実力をつける。 				
学習上の留意点			<ul style="list-style-type: none"> ・「化学基礎」との関連を考慮しながら、化学の基本的な概念の形成を図る。 ・化学的に探求する方法の習得を通して、化学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。 ・応用力を身につける。 				

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理科	科目	化学	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類特理
到達目標	・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するため必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数(語句・簡単な計算・問題集の類似問題)、実験レポート(方法・データ)等を基準として評価する。 【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数(計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題)、レポート、実験レポート(考察)等を基準として評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート(振り返り)、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：化学(数研出版) 副教材：2024セミナー化学基礎+化学(第一学習社)、新インプレス化学ノート(浜島書店)						
1	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素(Ⅰ)-典型元素- 第3章 金属元素(Ⅱ)-遷移元素- 第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物	・典型元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 ・遷移元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 ・脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 ・官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 ・芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解する。					
2	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物 大学入試共通テスト 演習 大学入試問題 演習	・高分子化合物について性質や反応、構造を理解するとともに、その有用性などを認識する。また高分子化合物と身の回りの物質や地球環境、産業とのかかわりについても考える。 ・問題の演習を通じて、化学の理解を深めるとともに大学入試共通テストおよび私立大学の入試に対する実力をつける。					
3	大学入試問題 演習	・大学入試の過去問題の演習を通じて、国公立大学の入試に対する実力をつける。					
学習上の留意点	・「化学基礎」との関連を考慮しながら、化学の基本的な概念の形成を図る。 ・化学的に探求する方法の習得を通して、化学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。 ・応用力を身につける。						

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類理系
到達目標	生物や生物現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育成する。探究的な学習を重視し、学習を進める中で生物や生物現象に対する理解を深め、それらに対する疑問を解決しようとする探究心を育てる。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考查の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。 【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考查の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：生物（実教出版） 副教材：ニュースステージ生物（浜島書店） センサー生物（啓林館）						
学期	学習内容	学習のねらい					
1	3章 遺伝情報の発現と発生 3節：遺伝子を扱う技術 4章 生物の環境応答 1節：動物の反応 2節：動物の行動 3節：植物の成長と環境応答	・遺伝子発現のしくみと細胞分化との関わりについて学習し、さらに、バイオテクノロジーの原理と有用性を理解する。 ・受容器として眼と耳を中心に、効果器として筋肉を中心に取り上げ、刺激の受容から反応までを理解する。 ・刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解する。 ・植物ホルモンと光受容体について理解する。					
2	5章 生態と環境 1節：個体群と生物群集 2節：生態系 「生物基礎」・「生物」演習	・個体群とその変動について理解する。 ・個体群内の相互作用、個体群間の相互作用、種間競争、相利共生を理解する。 ・生物群集の成り立ちについて理解する。 ・生態系における物質生産とエネルギー効率について理解する。 ・大学入試共通テストおよび各大学入試問題演習を行う。					
3	「生物基礎」・「生物」演習	・大学入試共通テストおよび各大学入試問題演習を行う。					
学習上の留意点	・授業に集中し、積極的な学習態度で臨むこと。 ・問題集を家庭学習として利用し、学習の定着を図ること。						

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	体育（男女）	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年 I 類文 1 理系
到達目標	・集団行動を通じて集団の中で個人の役割・協調性を考えることができる。 ・運動技能の習得だけでなく、運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで種目を選択し、運動に取り組める。 ・個々の能力に応じた課題の解決を目指して、活動のしかたを考え工夫する力を身につける。 ・運動の技能や体力を向上させるとともに、公正、協力、責任、参画、共生等に対する意欲を高め、健康、安全を確保して、生涯スポーツの重要性を考え、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。						
評価の観点 評価基準	【知識・技能】 ・身につけた技能や動き等の出来映えを確かめたり、新たに技や動き及び得意技を身に付けたりして、記録や技に挑戦したり、参加者の体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に応じてルールを工夫するなどして試合をしたり、発表したりできている。技術の名称や行い方、ルールを理解している。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・各種運動に自主的に取り組むとともに、お互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること、話合いに貢献しようとすることなどや、健康・安全を確保している。						
使用教材	「ステップアップ高校スポーツ 2023」「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館）						
学期	学習内容	学習のねらい					
1	<ul style="list-style-type: none"> ・体つくり運動 ①バドミントン ②バスケットボール ③バレーボール ④ソフトテニス ⑤ソフトボール ⑥サッカー ⑦陸上競技 ⑧ダンス <p>から 1 種目選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育理論（2 時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や、自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てるようになります。 <p style="text-align: right;"><1・2・3 学期共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが選択した種目で、自己の目標を達成できるよう努力させる。 ・自己や仲間の体力や能力に応じた課題、目標を設定して運動する。 ・リーダーを中心、全員で分担・協力して工夫して活動を行う。 ・ルールを理解し、ゲーム運営・審判ができる。 ・チームの能力に応じて作戦をたて、個人の能力を最大限に引き出す。 ・ゲームを通して運動の楽しさや喜びを味わう。 					
2	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から 1 種目選択 <ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から 1 種目選択 ・体育理論（2 時間） 						
3	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から 1 種目選択 ・体育理論（2 時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツの見方・考え方、ライフスタイルに応じたスポーツ、日本のスポーツ振興、スポーツと環境について理解させる。 					
学習上の留意点	・身体を動かすことの楽しさや、主体的に仲間と協力することの大切さを理解させる。 ・運動技能の習得・体力の向上を図るとともに、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、継続していく運動への興味・習慣を身につけさせる。 ・体育理論を適時実施する。（6 時間）						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	体育（男女）	単位数	3単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文2
到達目標	・集団行動を通じて集団の中で個人の役割・協調性を考えることができる。 ・運動技能の習得だけでなく、運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで種目を選択し、運動に取り組める。 ・個々の能力に応じた課題の解決を目指して、活動のしかたを考え工夫する力を身につける。 ・運動の技能や体力を向上させるとともに、公正、協力、責任、参画、共生等に対する意欲を高め、健康、安全を確保して、生涯スポーツの重要性を考え、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。						
評価の観点評価基準	【知識・技能】 ・身につけた技能や動き等の出来映えを確かめたり、新たに技や動き及び得意技を身に付けたりして、記録や技に挑戦したり、参加者の体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に応じてルールを工夫するなどして試合をしたり、発表したりできている。技術の名称や行い方、ルールを理解している。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・各種運動に自主的に取り組むとともに、お互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること、話合いに貢献しようとすることなどや、健康・安全を確保している。						
使用教材	「ステップアップ高校スポーツ2023」「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館）						
学期	学習内容	学習のねらい					
1	<ul style="list-style-type: none"> ・体つくり運動 ①バドミントン ②バスケットボール ③バレーボール ④ソフトテニス ⑤ソフトボール ⑥サッカー ⑦陸上競技 ⑧ダンス <p>から1種目選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育理論（2時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や、自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 <p style="text-align: right;"><1・2・3学期共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが選択した種目で、自己の目標を達成できるよう努力させる。 ・自己や仲間の体力や能力に応じた課題、目標を設定して運動する。 ・リーダーを中心に行なう、全員で分担・協力して工夫して活動を行う。 ・ルールを理解し、ゲーム運営・審判ができる。 ・チームの能力に応じて作戦をたて、個人の能力を最大限に引き出す。 ・ゲームを通して運動の楽しさや喜びを味わう。 					
2	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から1種目選択 <ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から1種目選択 ・体育理論（2時間） 						
3	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から1種目選択 ・体育理論（2時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツの見方・考え方、ライフスタイルに応じたスポーツ、日本のスポーツ振興、スポーツと環境について理解させる。 					
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすことの楽しさや、主体的に仲間と協力することの大切さを理解させる。 ・運動技能の習得・体力の向上を図るとともに、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、継続していく運動への興味・習慣を身につけさせる。 ・体育理論を適時実施する。（6時間） 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	体育（男女）	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を通じて集団の中で個人の役割・協調性を考えることができる。 ・運動技能の習得だけでなく、運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで種目を選択し、運動に取り組める。 ・個々の能力に応じた課題の解決を目指して、活動のしかたを考え工夫する力を身につける。 ・運動の技能や体力を向上させるとともに、公正、協力、責任、参画、共生等に対する意欲を高め、健康、安全を確保して、生涯スポーツの重要性を考え、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。 						
評価の観点評価基準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身につけた技能や動き等の出来映えを確かめたり、新たに技や動き及び得意技を身に付けたりして、記録や技に挑戦したり、参加者の体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に応じてルールを工夫するなどして試合をしたり、発表したりできている。技術の名称や行い方、ルールを理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種運動に自主的に取り組むとともに、お互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること、話合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保している。 						
使用教材	「ステップアップ高校スポーツ2023」「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館）						
学期	学習内容	学習のねらい					
1	<ul style="list-style-type: none"> ・体つくり運動 ①バドミントン ②バスケットボール ③バレーボール ④ソフトテニス ⑤ソフトボール ⑥サッカー ⑦陸上競技 ⑧ダンス <p>から1種目選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育理論（2時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や、自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てるようになる。 <p style="text-align: right;"><1・2・3学期共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが選択した種目で、自己の目標を達成できるよう努力させる。 ・自己や仲間の体力や能力に応じた課題、目標を設定して運動する。 ・リーダーを中心に行なう。 ・ルールを理解し、ゲーム運営・審判ができる。 ・チームの能力に応じて作戦をたて、個人の能力を最大限に引き出す。 ・ゲームを通して運動の楽しさや喜びを味わう。 					
2	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から1種目選択 <ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から1種目選択 ・体育理論（2時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツの見方・考え方、ライフスタイルに応じたスポーツ、日本のスポーツ振興、スポーツと環境について理解させる。 					
3	<ul style="list-style-type: none"> ・①～⑧から1種目選択 ・体育理論（2時間） 						
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすことの楽しさや、主体的に仲間と協力することの大切さを理解させる。 ・運動技能の習得・体力の向上を図るとともに、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、継続していく運動への興味・習慣を身につけさせる。 ・体育理論を適時実施する。（6時間） 						

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画(シラバス)

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	2単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文2
到達目標	・書の文化や伝統について、理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞能力伸ばす。 ・書を愛好する心情を育てると共に感性をさらに高める						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 書の表現や、発展的な古典を理解し、効果的な技法を身につけ、臨書・創作することができたか。</p> <p>【思考・判断・表現】 書の様々な美を感じ取り、これまで学んだ古典の知識を組み合わせ、表現を工夫することができたか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 書の表現や鑑賞など、幅広い活動に取り組もうとする。</p>						
使用教材	書道Ⅱ（書Ⅱ703）教育出版・自作プリント						
学期	学習内容		学習のねらい				
1	○篆書の学習 ○篆刻・刻字の学習		篆書の基本的な用筆・運筆・結構を臨書・鑑賞することにより習得し、その特徴を理解する。 習得した技法を生かし、姓名印を刻る。				
2	○楷書・行書・草書・隸書の学習 ○仮名の学習		I年次・II年次の学習を基礎に発展させる。 書道Ⅰの学習を基に、各古典の字形や線質の違いを理解し、習得する。 臨書・倣書・創作の手順を確認しながら、創作する。				
3	○漢字仮名交じりの書の学習 ○大字の学習		今までの学習を基に自分の思考や感動を表現できる語句を選び、表記方法を工夫しながら作品制作をする。 漢字の古典・仮名の古典・用具・用材・筆使い・墨色・余白・文字の大きさなど生かした表現を試みる。				
学習上の留意点	三年間の学習のまとめとして、それぞれに応じた表現を目指し、各自の個性をより効果的に表現できるように、用具・形式・詩文などを選択していく。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションIII	単位数	4単位	履修学年	Ⅲ年 I類
到達目標			<p>日常的、社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、対話の展開、事前の準備、情報量等において支援をほとんど活用しなくとも、以下に示す5領域において、それぞれの能力を身につける。</p> <p>【聞くこと】必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようになる。</p> <p>【読むこと】必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握し、概要や要点等を捉えることができるようになる。</p> <p>【話すこと(やりとり)】目的や場面、状況等に応じて、多様な語句や文を適切に用いて情報や考え、気持ち等を詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】目的や場面、状況等に応じて、多様な語句や文を適切に用いて情報や考え、気持ち等を論理的に詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】目的や場面、状況等に応じて、多様な語句や文を適切に用いて情報や考え、気持ち等を複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>				
評価の観点・評価基準			<p>【知識・技能】単語や文法事項等の英語の特徴や決まりについて理解し、身につけられているか、また、それらの力を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】目的や場面、状況等に応じて、多様な語句や文を用いて情報や考え、気持ち等を論理性に注意しながら表現したり、伝え合ったりしている状況を定期考査やパフォーマンステスト、Writing課題等で確認し、評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもって学習を進めたり、振り返ったりするといった自ら学習を調整しようとしている姿勢や粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>				
使用教材			<p>『MY WAY English Communication III』（三省堂）</p> <p>『MY WAY English Communication III ワークブック スタンダード版』（三省堂）</p> <p>『MY WAY マイウェイ総合英語』（三省堂）</p>				
学期		学習内容		学習のねらい			
1学期		<p>Unit1 Strategy 1 ~ 8</p> <p>Unit2 Lesson1・2</p>		<p>関連したトピックについて理解を深める。また、学習した文法項目を使ったコミュニケーションをALTとの活動(1時間/週)を通じて学んでいく。</p> <p>※ALTとの活動時には、活動内容によって「論理・表現III」の教科書や教材プリント等を使用することがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課の題材を読みとり、理解する。 ・習得した文法や表現に注意しながら英文を読む。 			
		Team Teaching		・ALTとの活動を通じて、英語特有の言い回しを習得する。			
2学期		<p>Unit2 Lesson3 ~ 7</p> <p>Unit3 Lesson8</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・各課の題材を読みとり、理解する。 ・習得した文法や表現に注意しながら英文を読む。 			
		Team Teaching		・ALTとの活動を通じて、英語特有の言い回しを習得する。			
3学期		<p>Unit3 Lesson9・10</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・各課の題材を読みとり、理解する。 ・習得した文法や表現に注意しながら英文を読む。 			
		Team Teaching		・ALTとの活動を通じて、英語特有の言い回しを習得する。			
学習上の留意点				授業では、教科書の問題やワークブック等を用いて内容を理解したり、文法事項を確認したりする。適宜ペアワークやグループワークを行い、相互理解を深めつつ、コミュニケーション能力を向上させていく。授業の予習として、単語・熟語の意味調べに取り組み、分からぬことは調べるという習慣をつける。授業後は、学習した英文を音読したり、文法問題を解き直したりして復習を行う。			

科目的年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類
到達目標			日常的、社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、対話の展開、事前の準備、情報量などにおいて支援をほとんど活用しなくとも、以下に示す5領域において、それぞれの能力を身につける。 【聞くこと】必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようになる。 【読むこと】必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようになる。 【話すこと(やりとり)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようになる。 【話すこと(発表)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようになる。 【書くこと】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようになる。				
評価の観点・評価基準			【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。 【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査、Writing課題等で確認し、評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考・判断・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やリフレクション等で確認し、評価する。				
使用教材			・FLEX English Communication Ⅲ（増進堂） ・EARTHRISE English Logic and Expression Ⅲ Advanced（数研出版） ・大学入試対策用問題集				
学期			学習内容			学習のねらい	
1学期			Lesson 1 : Potential Uses of Optical Illusions Lesson 2 : Expanding World Population Lesson 3 : What Makes a Hit Song? Lesson 4 : Visas for Life Lesson 5 : How Have Butterflies Survived? ・大学入試対策問題集			・教科書本文の音声を正確に聞き取る。 ・未知の語の意味を推測し、背景となる知識を活用しながら読む。 ・文法や語法に注意し、本文内容を正確に読み取る。 ・文章の中でキーとなる語句や文、段落の構成や展開に注意して読む。 ・筆者の見解を正確に理解して、要約し話す。 ・日常生活・現代社会の様々な問題に関心を持ち、考え、自分の意見を深める。 ・過去の入試問題、模試問題やそれに準ずる実践的演習問題を数多く解くことで、実践力を身につける。	
2学期			Lesson 6 : Mr. Price Meets Jakuchū Lesson 7 : Sustainable Lifestyle of the Edo Period Lesson 8 : Why Do We Lie? Lesson 9 : In Defense of Zoos Lesson 10 : Eco-friendly Farming of Bluefin Tuna Lesson 11 : A Brief History of Humans ・大学入試対策問題集			*年間を通じ、週に一度ALTとのチームティーチング授業を実施し、教科書の題材に合わせた時事的な話題に触れ、内容理解を深める。また、自分の意見を述べたり、記述したりすることで、思考力・判断力・表現力を高める。	
3学期			大学入学共通テスト問題演習			・大学入試の長文問題に対応する実力を養う。	
学習上の留意点						・自ら外国語を理解し、使おうとする等、積極的な姿勢を身につける。 ・英文をただ読むだけでなく、筆者の主張や論理の組み立て方を理解するように努める。 ・英文のテーマは多岐に渡っており、英語の知識だけでは解決できない内容も扱うため、日頃から様々な事柄に好奇心を持ち、周辺知識を深めるように努める。 ・自身の活動(聞く・話す・読む・書く)を豊富に取り入れ、英語運用力向上を目指す。	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅲ	単位数	3 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文系
到達目標			<p>日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、次のことができるようになる。</p> <p>【話すこと(やり取り)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>				
評価の観点・評価基準			<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査、Writing課題等で確認し、評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>				
使用教材			<p>教科書『APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅢ』（開隆堂出版）</p> <p>副教材『APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅢ workbook』（開隆堂出版）</p> <p>『MY WAY マイウェイ総合英語』（三省堂）・大学入試対策問題集</p>				
			学習内容	学習のねらい			
1			<p>Lesson 1 What Are You Going to Do during the Golden Week Holidays?</p> <p>Lesson 2 What Do You Want to Do in the Future?</p> <p>Lesson 3 Suggest a New Style of Traveling</p> <p>Lesson 4 Communicating Your Requests</p> <p>Lesson 5 Thank You for Your Support</p> <p>Lesson 6 How to Complain Politely</p> <p>・大学入試対策問題集</p>	<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</p>			
2			<p>Lesson 7 My Specialty</p> <p>Lesson 8 My Special People and Places</p> <p>Lesson 9 Paragraph Writing</p> <p>Lesson 10 Presentation</p> <p>Lesson 11 Discussion</p> <p>Lesson 12 Debate</p> <p>・大学入試対策問題集</p>	<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</p>			
3			<p>・大学入試対策問題集</p>	<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</p>			
学習上の留意点			<p>授業では教科書以外にも、大学入試対策問題集や教科書の内容に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得をしていきます。授業の予習として、英文に目を通し分からない英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英単語・熟語のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、語彙力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながります。</p>				

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅲ	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年 I 類理系										
到達目標			<p>日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、次のことができるようになる。</p> <p>【話すこと(やり取り)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>														
評価の観点・評価基準			<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査、Writing課題等で確認し、評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やりフレクション等で確認し、評価する。</p>														
使用教材			<p>教科書『APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅢ』（開隆堂出版）</p> <p>副教材『APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅢ workbook』（開隆堂出版）</p> <p>『MY WAY マイウェイ総合英語』（三省堂）・大学入試対策問題集</p>														
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>学習内容</th><th>学習のねらい</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> Lesson 1 What Are You Going to Do during the Golden Week Holidays? Lesson 2 What Do You Want to Do in the Future? Lesson 3 Suggest a New Style of Traveling Lesson 4 Communicating Your Requests Lesson 5 Thank You for Your Support ・大学入試対策問題集 </td><td>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</td></tr> <tr> <td> Lesson 6 How to Complain Politely Lesson 7 My Specialty Lesson 8 My Special People and Places Lesson 9 Paragraph Writing Lesson 10 Presentation Lesson 11 Discussion ・大学入試対策問題集 </td><td>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</td></tr> <tr> <td> Lesson 12 Debate ・大学入試対策問題集 </td><td>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</td></tr> <tr> <td>授業では教科書以外にも、大学入試対策問題集や教科書の内容に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得をしていきます。授業の予習として、英文に目を通し分からない英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英単語・熟語のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、語彙力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながります。</td><td></td></tr> </tbody> </table>	学習内容	学習のねらい	Lesson 1 What Are You Going to Do during the Golden Week Holidays? Lesson 2 What Do You Want to Do in the Future? Lesson 3 Suggest a New Style of Traveling Lesson 4 Communicating Your Requests Lesson 5 Thank You for Your Support ・大学入試対策問題集	関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。	Lesson 6 How to Complain Politely Lesson 7 My Specialty Lesson 8 My Special People and Places Lesson 9 Paragraph Writing Lesson 10 Presentation Lesson 11 Discussion ・大学入試対策問題集	関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。	Lesson 12 Debate ・大学入試対策問題集	関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。	授業では教科書以外にも、大学入試対策問題集や教科書の内容に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得をしていきます。授業の予習として、英文に目を通し分からない英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英単語・熟語のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、語彙力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながります。					
学習内容	学習のねらい																
Lesson 1 What Are You Going to Do during the Golden Week Holidays? Lesson 2 What Do You Want to Do in the Future? Lesson 3 Suggest a New Style of Traveling Lesson 4 Communicating Your Requests Lesson 5 Thank You for Your Support ・大学入試対策問題集	関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。																
Lesson 6 How to Complain Politely Lesson 7 My Specialty Lesson 8 My Special People and Places Lesson 9 Paragraph Writing Lesson 10 Presentation Lesson 11 Discussion ・大学入試対策問題集	関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。																
Lesson 12 Debate ・大学入試対策問題集	関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。																
授業では教科書以外にも、大学入試対策問題集や教科書の内容に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得をしていきます。授業の予習として、英文に目を通し分からない英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英単語・熟語のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、語彙力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながります。																	
学習上の留意点																	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅲ	単位数	3単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類文系
到達目標			日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、複数の資料を活用しながら、次のことができるようになる。 【話すこと(やり取り)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようになる。 【話すこと(発表)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようになる。 【書くこと】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。				
評価の観点・評価基準			【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。 【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査、Writing課題等で確認し、評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やリフレクション等で確認し、評価する。				
使用教材			教科書『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅲ Advanced』（教研出版） 副教材『スクランブル構文とイディオム 3rd Edition』（旺文社）他 オンライン教材『スタディサプリ・イングリッシュ』（リクルート）				
		学習内容				学習のねらい	
1学期		「メールを書く」 Lesson 1 Coming to Japan Lesson 2 Online shopping Lesson 3 Preparing to study abroad 「意見を述べる」 Lesson 4 24-hours stores Lesson 5 Smart agriculture Lesson 6 Aiman, the house ・大学入試対策問題集				・教科書では、[Travel],[Education],[Shopping],[Economy],[Agriculture],[Food],[Technology],[Society],[Science],[Media],[Career],[Environment]といった身近に感じることができる日常的な話題や社会的な話題をテーマに議論したり自分の考えを表現したりする力を養う。	
2学期		「イラストを説明する」 Lesson 7 Recipes Lesson 8 A helping hand 「申込書・応募書類を作る」 Lesson 9 International Science Fair Lesson 10 Future career plans 「要点を整理する」 Lesson 11 Media reliability Lesson 12 Garbage problems ・大学入試対策問題集				・授業では教科書以外にも、『RANDOM CHALLENGE 450 Standard』や『スクランブル構文とイディオム 3rd Edition』で演習を行い、大学入試に必要な力を養う。 ・過去の入試問題、模試問題やそれに準ずる実践的演習問題を数多く解くことで、実践力を身につける。	
3学期		大学入試共通テスト問題演習				・大学入試に対応する実力を養う。	
学習上の留意点			授業では教科書以外に、大学入試対策問題集や教科書に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得します。予習として、英文に目を通し、分からない英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習してください。他に、ListeningとReadingのトレーニングとして、毎日、スタディサプリ・イングリッシュの課題に取り組んでください。日々の積み重ねが英語力向上につながります。また、定期的に英作文テストを行い、Writing力の強化もしていきます。				

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅲ	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類理系
到達目標			日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくとも、複数の資料を活用しながら、次のことができるようになる。 【話すこと(やり取り)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようになる。 【話すこと(発表)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようになる。 【書くこと】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えるができるようになる。				
評価の観点・評価基準			【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考查や小テスト等で確認し、評価する。 【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考查、Writing課題等で確認し、評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やリフレクション等で確認し、評価する。				
使用教材			教科書『EARTHRise English Logic and Expression Ⅲ Advanced』(数研出版) 副教材『スクランブル構文とイディオム 3rd Edition』(旺文社) 他 オンライン教材『スタディサプリ・イングリッシュ』(リクルート)				
		学習内容	学习のねらい				
1 学期		「メールを書く」 Lesson 1 Coming to Japan Lesson 2 Online shopping Lesson 3 Preparing to study abroad 「意見を述べる」 Lesson 4 24-hours stores Lesson 5 Smart agriculture ・大学入試対策問題集	・教科書では、[Travel],[Education],[Shopping],[Economy],[Agriculture],[Food],[Technology],[Society],[Science],[Media],[Career],[Environment]といった身近に感じることができる日常的な話題や社会的な話題をテーマに議論したり自分の考えを表現したりする力を養う。				
2 学期		「意見を述べる」 Lesson 6 Aiman, the house 「イラストを説明する」 Lesson 7 Recipes Lesson 8 A helping hand 「申込書・応募書類を作る」 Lesson 9 International Science Fair Lesson 10 Future career plans 「要点を整理する」 Lesson 11 Media reliability ・大学入試対策問題集	・授業では教科書以外にも、『RANDOM CHALLENGE 450 Standard』や『スクランブル構文のイディオム 3rd Edition』で演習を行い、大学入試に必要な力を養う。 ・過去の入試問題、模試問題やそれに準ずる実践的演習問題を数多く解くことで、実践力を身につける。				
3 学期		「要点を整理する」 Lesson 12 Garbage problems ・大学入試共通テスト問題演習	・大学入試に対応する実力を養う。				
学習上の留意点		授業では教科書以外に、大学入試対策問題集や教科書に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得します。予習として、英文に目を通し、分からぬ英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習してください。他に、ListeningとReadingのトレーニングとして、毎日、スタディサプリ・イングリッシュの課題を取り組んでください。日々の積み重ねが英語力向上につながります。また、定期的に作文テストを行い、Writing力の強化もしていきます。					

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ 年
到達目標			情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。				
評価の観点・評価基準		【知識・技能】	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータ活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解しているかどうか。				
	【思考・判断・表現】	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いているかどうか。					
	【主体的に学習に取り組む態度】	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしているかどうか。					
	【基準】	「定期考查、授業時の様子、課題提出」などを基に総合的に評価する。					
使用教材	教科書 東京書籍 「情報Ⅰ」(情Ⅰ702) 問題集 東京書籍 「ニューステップアップ 情報Ⅰ」 啓林館 「大学入学共通テスト対策問題集 情報Ⅰ」						
学期	学習内容		学習のねらい				
1 学期	第1章 情報社会 ・情報とメディア ・情報社会におけるモラル・セキュリティ ・情報社会が社会に及ぼす影響		「情報」とは何かを理解する。また、情報に関する法規・制度や個人の責任、情報モラルに基づいた行動について理解する。				
	第2章 情報デザイン ・情報のデジタル表現 ・コミュニケーションの手段と特徴 ・情報デザイン		情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進数による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解する。				
2 学期	第3章 プログラミング ・コンピュータのしくみ ・アルゴリズムとプログラミング ・モデル化とシミュレーション		コンピュータのハードウェアやソフトウェアなど、基本的なしくみを理解する。 問題解決するためのアルゴリズムを考え、プログラミングの基本を理解する。また、目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、問題を適切に解決する方法を考えられるようにする。				
	第4章 ネットワークの活用 ・ネットワークのしくみ ・データベース ・データ分析		情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解する。また、データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識、データの収集、整理、分析する方法について理解する。				
3 学期	共通テストに向けた総合演習		共通テストに対応できる実力養成				
学習上の留意点		情報社会で必要となる知識や考え方はもちろんのこと、コンピュータを使用する上でのスキルやネットワーク利用時のマナー・モラルなどを学びます。そのため、知識を蓄えるだけでなく、情報モラルに基づいた行動が大切です。また、問題解決に対する手順や段取りを考えることも必要となるため、様々な情報を取得・収集し、取捨選択および評価・判断する能力を身に付けられるように、日頃から情報社会に関するニュースや出来事に興味を持つことも大切です。					

科目の年間授業計画（シラバス）

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	探究	科目	総合的な探究の時間	単位数	1	履修学年	高Ⅲ学年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・探究に主体的・協働的に取り組み、集団における自己の役割や責任を見いだすとともに、仲間と協調して互いのよさを生かしながら、よりよい社会を実現しようとする。 ・自らが調査し活動したテーマについて、未来の社会とつなげて考える。 ・調査、活動した探究内容を様々な表現方法でまとめたり、個人から外の世界に向かって発信したりする。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 探究過程において、課題発見と解決に必要な発展的な知識及び技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 身近なものや環境を深く知り、地域や社会の問題を身近に捉えながら、「これから自分の自分に何ができるか」を見つけだし、自分のテーマを決め発表する。問題解決に必要な情報を様々な手段を選択しながら収集している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自分の興味・関心のある問題やテーマを知り、物事を客観的かつ科学的に見る力を身につけようとしている。よりよい地域、よりよい社会を実現しようとする態度を養おうとしている。</p>						
使用教材	『課題研究メソッド』（啓林館）						
1	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報を取捨選択し、情報の傾向を見つけて、複数の情報を組み合わせて新しい関係を見いだしたりする。 ・各自が活動した内容、活動で得た結果などからキーワードをまとめ、様々な方法で表現する方法を学ぶ。（レポート作成方法やスピーチの方法などを学ぶ。） 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の複雑な問題状況を把握し、自分の進路や興味、関心と結びつけながら、自己の課題を明らかにさせる。 ・レポートでのまとめ方を身につけさせる。 ・改めて自己の将来について深く考え、これからの生活の有様を見つめさせる。 				
2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の探究成果を受け、未来や将来を豊かにするための世界・社会・自分の活動や取り組みを文章化する。（「未来への提言書」を作成する。） ・文章化した「提言書」を客観的に読み、推敲を重ねる。 ・文章化したものを個人から外の世界に向かって発信する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・探究を通して、自己を見つめ、自分の個性や特徴に気づかせる。 ・外の世界に向けて、研究論文、スライド発表、ポスター発表など様々な形式が使用されていることを理解させる。 ・自他の良さを認め互いの特徴を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組ませる。 				
3	<ul style="list-style-type: none"> ・活動した内容や取り組みを通して、自分の在り方や生き方を考えながら、実社会で活用できる資質や能力の育成を意識させる。 ・3年間の探究活動を振り返り、自身の学習や生活に生かす。 		<ul style="list-style-type: none"> ・探究を通して、自己の在り方生き方を考えながら、将来社会の理想を実現する態度を養わせる。 ・次年度以降に学習する下級生の参考になる改善点を考えさせる。 				
学習上の留意点	探究の見方・考え方を働き、自己の興味・関心や進路選択に基づき、横断的・総合的な課題研究に取り組むことで、あらゆる場面で自ら考え判断し、課題解決に取り組むことができるよう、学年所属の全教員が協力し、目標が達成できるよう支援を行う。						

特別活動の年間授業計画（シラバス）